

出張報告

報告日

令和2年 2月 12日

会派名	日本共産党柏崎市議員団
報告者氏名	持田 繁義
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input checked="" type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	経済産業省、内閣府、原子力規制委員会、厚生労働省、文科省、総務省への要望
日時	令和2年2月4日 ~ 令和2年2月4日
場所 (会場)	東京都内 参議院議員会館
調査項目等	要請・陳情
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 柏崎刈羽原発について・ 新規制基準の深層防護について・ 安定ヨウ素剤の事前配布について・ 避難困難者対策、要支援者対策について・ 再生可能エネルギーへの転換と推進について・ 公立・公的病院の統廃合問題、撤回について・ 医師不足に対する対策について・ 国民健康保険事業運営への国の負担増額、財政支援について などを要望
所感等	<p>・ 原子力災害対策関係府省会議（平成28年4月25日）は、実動部隊の協力、民間事業者の協力、拡散計算も含めた情報提供のあり方の分科会を設置、この3分科会の「とりまとめ」の内容は依然として具体性に欠けている。</p> <p>・ 国の答弁は終始、具体性に欠け曖昧なもの。福島原発事故に向き合う姿勢が根本的に弱いこと。IAEAは放射能の閉じ込めと対策を具体的に規定（深層防護）し、原発を管理する企業責任を厳格に求めているが、日本の原子力規制は、この考え方に立っていない問題が露呈した。</p> <p>・ 中山間地の多い新潟県は、医療効率が悪い現実があり、公立・公的病院は「最後のとりで」といわれている。上からの統廃合は極めて乱暴なやり方であるが、撤回どころか、民間病院にまで広げる姿勢を見せた。甚だ遺憾である。</p>